

第2回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議（第5部会）会議録

日 時 平成27年8月20日（木） 9時30分から

場 所 周南市役所2F 第2応接室

出席者 ・委員 5名

有吉 毅彦、牧 洋史、稲葉 和也、山本 和寛（代理）、中村 孝史

・担当課・事務局職員 7名

中村 充孝、菅田 浩司、藤井 良明、宮崎 正臣、原田 修司、行富 広康、
山本 彩乃

会 議 議 事 録

1 開 会

（委員・職員の自己紹介）

2 グループワーク（以下、委員からの提案等）

（1）総合戦略掲載施策・事業の検討

（2）重要業績評価指標、基本目標に対する数値目標の検討

【公共交通、中山間地域に関する意見】

- 中山間地域の対策について、鹿野と熊毛は優先して行ってほしい。
- 国のイメージでは地域を集約化することで効率化を図ろうとしている。今の地域核を残していこうとした場合、周南市のみならず山口県は核と核の結びつきが薄い。
- それぞれの核となるまちづくりも大切だが、全体としてのネットワークをどう考えるかが計画の中に出てこないことが多い。
- こういう計画を立てても、拠点と拠点をつながないと意味がない。
- こういった話は過去ずっとやってきており、当時、昼間の人口を増やそうという議論やバスの便利のよい都市を作ろうという計画も立てている（バスがあることが重要）今までやってきたことの中にヒントがあると思う。

【水素エネルギーの利活用に関する意見】

- 水素関連事業は絶対必要だと思う。しかし、国が目指す総合戦略の中の「まち・ひと・しごと」と結びつけるには、表現の工夫が必要だと思う。
- コンビナートに関するご意見
- コンビナートのまちといえば、「3交代」と「単身赴任」のまち。3交代で働い

ている人が沢山いるということも、まちづくりのキーになる。

単身赴任で来ている人の中には住民票を異動させていない人が多く、そういった人たちが、実はお金と時間を沢山持っているという現実がある。

そういう人たちの意見を、一度聞いてみるのもよい。

- 駅前などにマンションなどを作ったら、大手企業は投資のために購入すると思う。そういった潜在需要が相当あると思う。

【数値目標に関する意見】

- 数値目標の「満足度」だが、元々、高い結果が出ていることと、抽象的な目標であるため難しいと思う。

【その他の意見】

- 人口減少について皆が危機感を持つことが大事。それができれば半分の目標は達成できたといってもいいのではないか。
- 中山間地域を無視するつもりはないが、もっと周南市の特性を出すことを考えていかないと、人は集まってこないのではないか。行政として、将来に向けた前向きな案を出されたいと思う。
- 周南市から転出した人、周南市以外に居住している人にも、アンケートし、本当の声を吸い上げないと意味がないのではないか。
- 総合戦略の中にあることを取っ掛りに、翌年度以降、実施計画をつくり取り組んでいくことになると思うが、このマスタープランに書いてないことを実施するのは難しいと思うので、やりたいと考えていることは全て書き出しておくべきだ。
- バス会社を運営していても潜在人口に対するニーズを満たしているのかと考える。
それと市役所などで下車する人が多いので、今となっては、バス路線は徳山駅で止まる必要はない。本当の周南の姿を見ていく必要がある。
- 従業員の都合で店の開店時間が決まっているように感じるが、お客の都合で色々なことを変えていくまちに変わらないといけない。

3 閉会

(次回開催案内)